

～胃がんの早期発見に検診を～

胃がんは、わが国でがん死亡の上位の疾患です。しかし、早期に発見すれば治療が可能です。早期胃がんは、内視鏡（胃カメラ）による治療も可能です。胃がんの初期段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行していても無症状の場合があります。早期発見・早期治療のためには、定期的な検診が重要です。また、症状がある場合は医療機関を受診しましょう。

※胃部内視鏡検査は安全性が高く信頼性のある検査ですが、以下の不利益やリスクがあります。不快感や嘔吐反応が生じる場合があります、まれに粘膜損傷や穿孔、出血などの合併症が発生することがあります。鎮静剤使用時には副作用としてアレルギー反応や呼吸抑制のリスクが伴います。また、検査後に咽頭痛や吐き気が起こる可能性があるため、医師の指示に従って対処してください。さらに、一部病変を見逃す（偽陰性）場合や、無害な病変が異常と判断される（擬陽性）可能性もあることをご理解ください。正しい知識を持ってがん検診を受診してください。

胃内視鏡検査の方法

・口または鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ細胞の検査（生検）を行うことがあります。

検診結果・精密検査の方法

検査の結果、「胃がんが認められません」とされた方は、その時点では精密検査の必要がないという意味です。今回異常がなくても定期的に検診を受けましょう。

検査の結果、「さらに詳しい検査が必要です」とされた方は、医療機関へご相談してください。

※精密検査の結果は個人情報保護法の例外事項であり、個人の同意がなくても依頼のあった自治体へ報告することとなっております。

胃がんの原因と予防

胃がんの原因の一つに塩分濃度の高い食品を食べる食習慣が影響しているといわれています。意識して改善に取り組みましょう。

男女別部位別がん死亡数の順位

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	膵臓	胃	肝臓

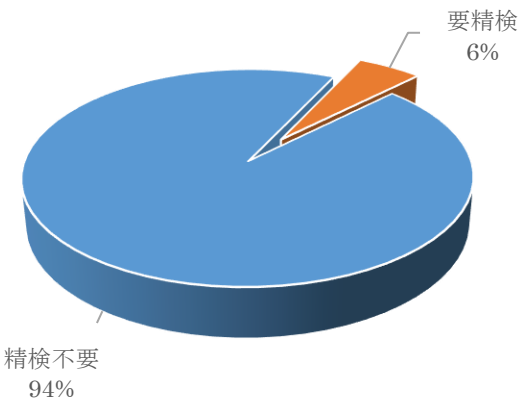
資料：がんの統計 2025（公益財団法人 がん研究振興財団 発行）

＊東大和市では令和6年中に23人の方が胃がんで命を落としています。

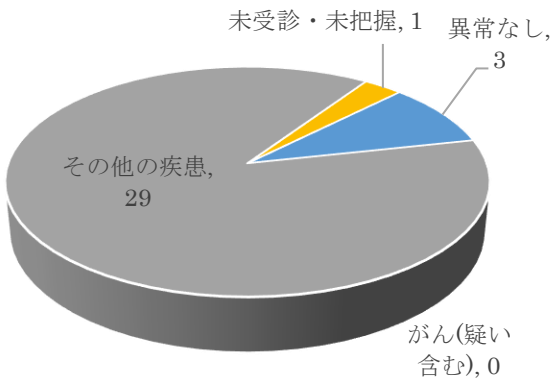
令和6年度東大和市における胃がん検診バリウム検査実施状況

東大和市で胃がん検診バリウム検査を受診した600人のうち、検診結果で要精密検査となった方は33人でした。精密検査を受診した方の結果は、胃がん（疑い含む）0人、その他の疾患29人、異常なし3人でした。

一次検診受診者600人
要精密検査者 33人



要精密検査者33名の内訳



お問合せ：東大和市健幸福祉部健康推進課成人保健係（東大和市立保健センター内） 電話：042-565-5211（月～金 9時～17時）